

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 8月分 各業界からのコメント

◎建設業

- ・新型コロナ感染が少し再発してきたが、社内ルールを踏襲し、5日出社控えとしている。猛暑に対する熱中症予防対策として、新たな商品投入を行っている。
- ・新卒・中途採用が思うように進まない。あの手この手と試行錯誤しているが苦戦している。採用費用の増大。機器・資材等の高騰にならび人件費の高騰により採算性が悪化。

◎製造業

- ・物価高、電気ガス等の値上げラッシュで国民が頭を悩ませているときになぜ追加利上げが発表されたのか疑問に感じる。新 NISA も定着しない、物流が変わり運賃の問題等、最低賃金もままならない中小零細企業の実態も知ってほしいと思う。

◎卸売業

- ・お盆商戦に向け、県内産果物の集荷対策をはかり、需要に対し万全対応する一方、盆明けの消費の低下や高温、猛暑による秋商材の著しい品質悪化が心配される。

◎小売業

- ・新車販売については、対前年比 91%前後で推移。物価高の影響が見える。中古車のオークション相場の上昇を受けて、収益が上昇し損益を支えている。
- ・8月に入り、梅雨明けの時期が昨年に比べ遅れた地域があり、エアコンや扇風機などの暑さ対策関連の商品の販売や、殺虫剤・除草用品の販売の伸長が見込まれる。また、夏休みや里帰りなど帰省需要の拡大に伴い、プール・海水浴関連の販売や、清掃用品などの販売が期待できる。しかしながら、実質賃金の上昇にまた時間を要しており、消費者の生活防衛意識は引き続き高い状態である。また、為替の変動が不安定のなか、円高・円安の方向性が定まらず依然として先行きは不安定な状況が続いている。
- ・年賀状印刷を毎年しているが、昨年より会社関係が年賀状を廃止する傾向が強く、今年現在でも数件辞める文章を頼まれている。また、はがきが 10 月より 85 円（現在は 63 円）になるため、個人でも辞める方が多くなると思う。益々、売上減少に繋がると思う。

◎サービス業

- ・エネルギーコストの高騰が収支に大きく影響を及ぼしている。
- ・物価高騰や人件費アップによる原価上昇の状況下において、コストアップ分を価格転嫁できていない。小売と違い業界は契約による業務受注であるため価格転嫁はユーザーへの説明とご理解が必要不可欠。
- ・求人を出しているにもかかわらずフルタイムの応募者が無い上、入社してもなかなか長く続かなく技術者の人手が不足し続けている。パートタイム・アルバイトは未経験者ながら補充できているため、業務の計画性を充実させ少しずつ経験を積んでいってもらうことを目指す。
- ・電気料金の値上げや秋へ向けた増税の行方を注視する。
- ・2019 年から 5 年間かけて部分値上げを実施した結果、原材料・営業コストの上昇・人件費増を吸収し収益は増加した。しかし今後の株価暴落・利上げを含む経済環境・賃上げ・ウクライナとロシアの戦争・イスラエルのかかわる中東紛争の激化・中国の経済動向と台湾問題などが大きな爆弾とならないことを祈る。
- ・前年と違い梅雨の期間が長かったことで、若干人の流れが弱かったように思われる。しかし、7 月終わりの佐渡金山の世界遺産登録が決まったことで、まだ大きな影響はないものの、少なから

ず人の流れが増加する期待があるため、それらを取り込んでプラスにしていきたい。

- ・社員の減少に伴い営業収入も減少したが、経費については高止まり傾向にあり採算が取れない。佐渡金山の世界遺産登録により、観光客の増加が期待されることから、新潟市内での1泊旅行者に期待している。
- ・タクシー業である弊社は現時点、売上としては順調に進んでいるものの原材料費・人件費等の高騰で、利益となるとまだまだ納得できる状況にはない。物価高の影響があるなかこの先どこまで人流が増加するのか、景気の状態に最も影響される業界のひとつとして、注視している。
- ・ブラックマンデー超えの株価大暴落や金利上昇など、今後の先行きが不安である。設備投資やリース料にも影響するため、一層のコスト削減や業務の効率化を図って行かなければならないと感じている。
- ・例年、夏休みの取得も多いため、夏場に売上が落ち着く傾向がある。
- ・猛暑の影響か、社員や社員の家族で体調を悪くする人が増えてきた。人手不足のため、クーラーや休憩等を活用して体調を維持させたい。